

Web Usability & Accessibility

17 法務省サイト



アクセシビリティ分析担当
濱田英雄
(株)ユーディット 主任研究員
hamada@udit-jp.com



ユーザビリティ分析担当
石田直子
(株)ユーディット 研究員
naoko@udit-jp.com

(株)ユーディット
URL <http://www.udit-jp.com>
「情報のユニバーサルデザイン」を目指し、アクセシブルなWebの制作やコンサルティング、高齢者や障害者も利用できるユニバーサルデザインの情報環境、製品の調査などを行っている

全体的には平均点以上 されどサイト構成など工夫を

民主主義と法治国家の基盤となる行政組織である法務省。国会審議中(7月10日時点)のメディア規制三法案をはじめ、国民生活に影響を与える新法、改正法の動向を知る手がかりとして法務省サイトを訪れる人も多かろう。一般人にはなじみの薄い法律関連情報をどのように整理し、来訪者にいかにわかりやすく提示しているのか。Webの「ユーザビリティ&アクセシビリティ」の番人、濱田・石田両氏が、法務省サイトの審判を下す。

わかりにくいサイトマップ 複雑なサイト構成に原因が

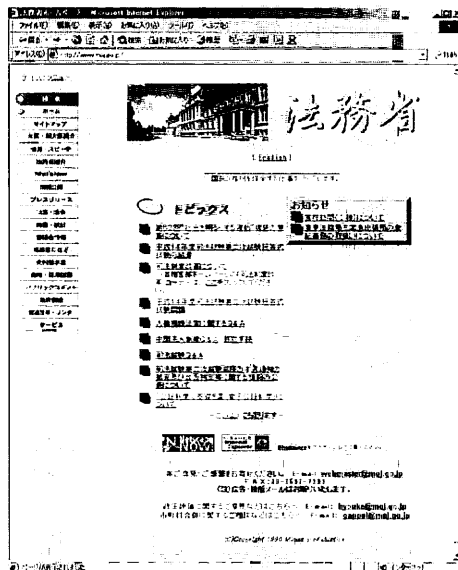
Webサイトには、定番のようにサイトマップが作られます。サイトマップはその名の通り、「サイトの地図」となるものです。ユーザーは、これを見ればこのサイトの中から自分が見たいところを見つけ出せるだろうという期待をもってサイトマップを開きます。しかし私の経験からすると、サイトマップで欲しい情報が見つけれられることは少ないです。

サイトマップは、全体像を一目で見せ、ユーザーが目的のページにたどり着くまでの道筋を予想させる役割があります。その意味ではトップページの役割に似ています。

サイトマップがわかりにくい原因の一つは、サイト構成にあります。サイト自体が論理的に複雑だと、1ページで図式化するのには相当の技術が必要です。また、サイトマップはコンテンツの深い階層部分も表示することが多く、必然的に情報が多くなります。今回の法務省のサイトマップ(図3:76ページ参照)もかなりページが長くなっています。すぐに欲しいものを見つけないのに、細かい字で長々と書かれては逆効果です。サイトマップのタイトルだけでは内容がわからないものもあります。

サイトマップがわかりやすいWebサイトは、トップページからでも十分目的のものを探し出せます。そうしたユーザビリティの高いサイトでは逆にサイトマップは必要な

図1 <http://www.moj.go.jp/>



ユーザビリティ総合評価 ★★★★★

一ロコメント シンプルな構成ですが、ナビゲーションがしっかりできています。もう少しページにメリハリをつけましょう。それとユーザーが欲しい情報にたどり着きやすくなるためのサイト構成を考慮しましょう。

アクセシビリティ総合評価 ★★★★★

一ロコメント 一応指針もあり、ガイドラインに沿って作るようになっていますが、細かい部分で、もう少し配慮すればだいぶよくなると思われる箇所がいくつもあります。

いのかもしれません

HTML言語表示に注意を Web作成ツールの問題点

Web制作を本業とする人でも、市販のWeb作成ソフト利用者は多くいると思います。

タグを書く手間を省くという意味で使うことを否定はしません。しかし、ほとんどの作成ソフトは不必要だったり、間違ったタグを吐き出しています。HTMLも言語ですから、ただ単にブラウザに表示されればよしという訳にはいきません。アクセシビリティへの配慮とは、言語のルールが遵守されてサイトが作られていることが前提条件です。したがって、使用ソフトが作り出すタグが確認できる程度のHTMLに関する知識が必要です。

法務省のフレーム表示を作るためのページを例にとると、フレームに未対応のブラウザや音声ブラウザのために必要なNOFRAMESタグが、

```
<NOFRAMES>  
<BODY BGCOLOR="#FFFFFF"  
TEXT="#000059">  
<NOFRAME>
```

となっています。3行目の <NOFRAME> は必要ありません。

次にセンター揃えにするためのタグですが、

```
<div align="center"><center>
```

このようにダブって書かれています。<center>は廃止されるタグなので、<div align="center">を使うようにしましょう。このほか、<NOFRAMES>には、不要な<table>や古くて中途半端なデータ、画像が入っていますが、何を入れるべきなのかをしっかりと把握する必要があります。

ユーザビリティについて (解説/石田直子)

ユーザーにサイトの目的が伝わること ★★

トップページに「法務省ホームページへようこそ! / 法務省は / 民主主義と……」というように、サイトの目的と法務省についての説明が1行ずつ表示されます(図2-①)。目的を伝える文章はよいのですが、読むのに時間がかかります。文章を簡潔にして、普通のテキストで表示したほうが伝わります。

全体像がトップページで把握できること ★★★★★

サイトの左側にナビゲーションフレームがあり、これが目次となっています。目次を見ることで、サイトに書かれていることのおおよその内容が把握できます。

省庁のサイトは共通コンテンツを用意しており、どの省庁のサイトも同じ目次を見ることができます。しかしトップページで、これがわかりやすく配置されていないサイトもあります。法務省は目次もトップページのコンテンツも、1スクロール程度の大きさで目に入るようになっているのでこの点は合格です。

デザインや構成が統一されていること ★★★★★

左のフレームメニューが継承されるようになっており、どのページにいても目次を参照できます。一部例外で別のウィンドウを開いたり、フレームが表示されないものがありますが、こうした項目はその他と区別がつくようにしておくといでしょう。

トップページでは背景画像が設定されていますが、背景とかぶり、一部で文字が見にくくなっているところがあります。背景画像はあまり主張しすぎないものがよいでしょう。

必要な情報が適切な場所にあること ★★

基本的なデザインが統一されており、戻るボタンなどの基本ナビゲーションがきちんとつけられています。

前頁でも述べたように、サイトマップ(図3)はサイトを把握するための地図になります。一方、「法務省紹介(図4)」を見ると、法務省についての紹介はなく、各局や官房のページへのリンクがずらりと並んでいます。まるで第二のサイトマップのようです。法務局のサイトとしては、ここに書かれている情報は項目を整理して、トップページからも見られるようにしてもよいでしょう。

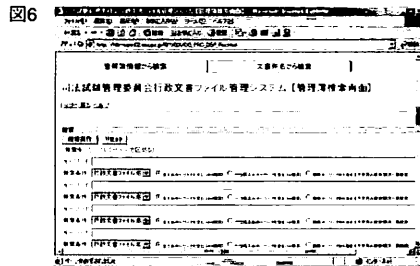
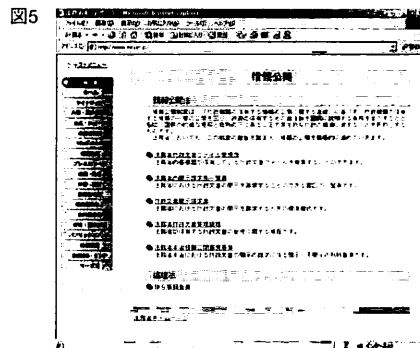
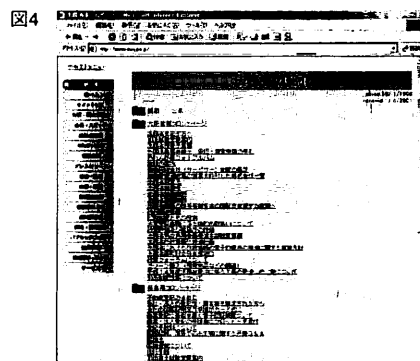
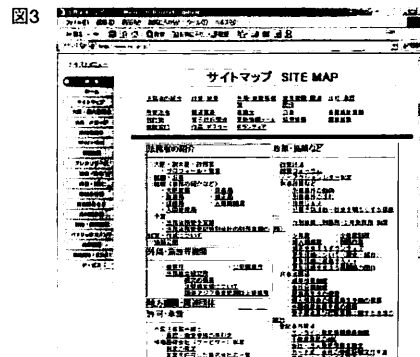
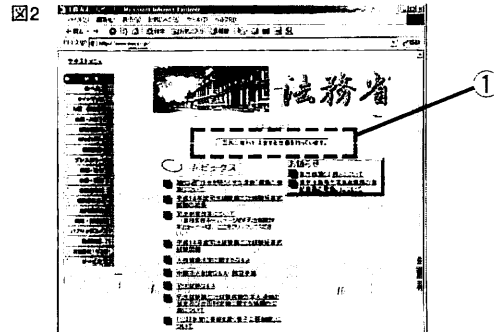
サイト構造の設計は重要です。ホームページの役割を考えて、ユーザーが必要とする情報に近づきやすくするようにしましょう。

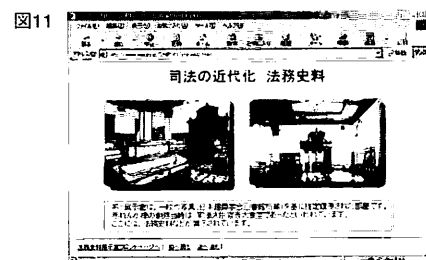
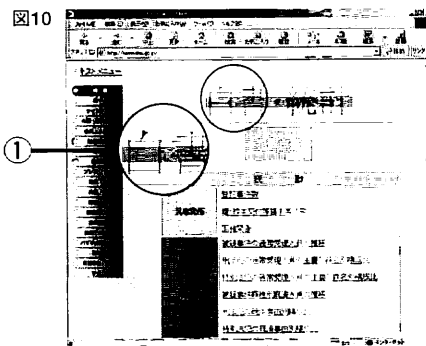
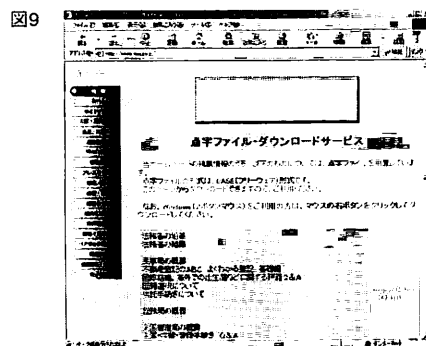
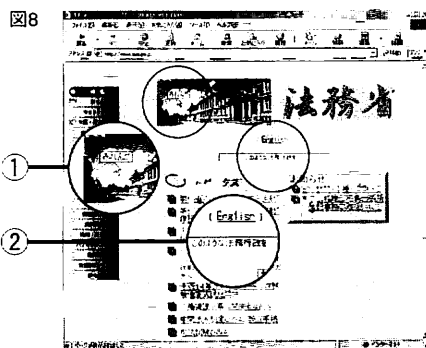
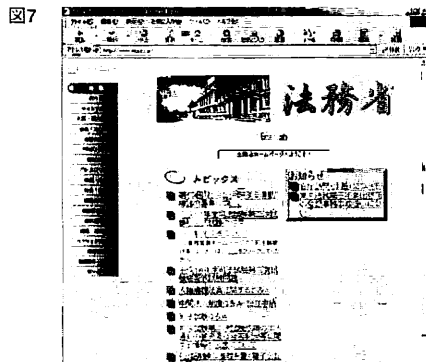
次の動作がわかりやすいこと ★★

サイト全体にわたって、文字の大きさがほとんど同じです。少なくとも見出しとなる項目については、文字のサイズを変えるなどしてメリハリをつけていきましょう。見出しや戻るボタンなどを統一したデザインにすると、ユーザーの視線が文字を追わずに、色彩や形を元にそこへジャンプすることができます。同レベルの見出しや、繰り返し使われるリンク先などは見やすい色や形にデザインするとよいでしょう。

予想されたフィードバックが返ってくること ★★★★★

サイト構成がシンプルなため、次ページを開く、戻るという基本的な動作には問題がありません。「情報公開」(図5)の中の「法務省行政文書ファイル管理簿」は別ページが開かれます。法務省管轄のページであれば、別ページを開くと混乱します。おそらく選択画面でフレームが邪魔になるとの配慮と思いますが(図6)、画面設計を工夫して統一感を出しましょう。





アクセシビリティについて (解説/濱田英雄)

画像にはALT属性をつけること

★★★★

ALT属性は一応ついていますが、一部にわかりにくい、情報の足りない箇所があります。

外国語の乱用はしないこと

★★★★

わかりにくい英語はあまり使われていないと思います。

<title>タグは的確につけること

★★★★

フレームが使われているので外からわかりにくいのですが、かなり長いタイトルがあります。概ね問題はないようです。

背景と文字色はコントラストがあること

★★

背景画像を使っているため、文章が読みにくくなっています。また、タイトルのデザイン背景と文字色とが同系色で見にくいところがあります。

フレームの使用は必要最小限にすること

★★★★

目次のためのフレームは使われていますが、許容範囲内だと思います。

新しい技術には代替手段を用意すること

★★

一部ページで、音声で読めないJava Scriptによる情報や、自動的にページが変わってしまうコンテンツがありました。作り方に配慮する必要があります。

その他

[トップページ]

●背景の問題 (図7)

このサイトでは紋章のような背景画像が使われています。色が薄くても文字と重なると読みにくくなります。背景画像はかなり工夫しないと使うべきではないと思います。

●ALT属性のつけ方の問題 (図8-①)

一番上の画像のALT属性に「赤れんが」としか入っていません。音声で聞いても意味がわかるように、「赤れんがの建物写真」「重要文化財、赤れんが棟の写真」などすべきでしょう。サイト内に「赤れんが棟フォトアルバム」があるので、そこにリンクするのもよいと思います。ただし、ここには写真があるだけで、文字情報が何もありません。画像には、本文と区別がつくように「……の写真」「……の図」と入れるべきでしょう。

●音声で読めない技術の問題 (図8-②)

法務省のロゴの下にあるフォームと、Java Scriptを使ったメッセージは音声ブラウザでは読めない可能性があります。この形式について検討する必要があります。

[サービス]

●音声で読めない技術の問題 (図9)

サービスのページに「点字ファイル・ダウンロードサービス」があり、最初にShockwaveのインストールを指示されます。なぜここにプラグインが必要なタイトルがあるのかわかりません。一応、Shockwaveも入れてみましたが、私の環境では再現されませんでした。

[白書・統計]

●色の組み合わせの問題 (図10-①)

濃いピンクのタイトル文字に同色のラインが入っています。このため、文字が大きいにも関わらず、かなり見にくくなっています。

[法務史料展示室]

●音声で読めない技術の問題 (図11)

この中には2つの展示紹介コーナーがあり、それぞれ「3分間で紹介します」と書かれています。つまり、ページを一定時間で次々と自動的にリンクさせる仕組みになっています。しかし、情報量の多いページでは、音声ブラウザが読み上げきらないうちに次のページに移動してしまいます。アイデアは面白いのですが、見る人が途中で止められる仕組みを入れたほうがよいでしょう。また、この場合に1ページはスクロールがでないような情報量だと見やすいと思います。